

【ガイドラインのポイント】

- ◆ デジタルサイネージやスマートフォンアプリ等を活用し、避難誘導等を多言語化・文字等による視覚化
- ◆ 「やさしい日本語」の活用※や、障害などの施設利用者の様々な特性に応じた避難誘導

多数の外国人来訪者や障害者等が利用する  
① 駅・空港  
② 競技場  
③ 旅館・ホテル等



デジタルサイネージで多言語表示



多言語放送



デジタルサイネージで多言語表示



スマートフォンアプリで多言語表示



「緊急地震速報」(地震発生)

「火災発生」・「避難指示」

個別対応



地震の揺れ等によるパニック状態(慌てて施設から出ようとする等)を想定した対応

フリップボードで多言語表示



翻訳(対訳)機能付き拡声器



個別対応



放送内容を理解できなかった外国人や障害者等に個別に説明

避難誘導完了  
消防隊の到着

安全な場所(屋外等)へ避難

個別対応



けがや体調不良の外国人や障害者等の発生を想定した対応

タブレットやスマートフォン等により外国人の母語や筆談などでコミュニケーション



注)外国人の母語や翻訳ツール等を用いた詳しい説明等の時間を要する対応は、緊急時は、必要以上に行わず、安全な場所への迅速な避難を優先

個別対応



外国人や障害者等のエレベーターへの閉じ込めを想定した対応

個別対応



外国人や障害者等を個別に避難場所まで誘導

施設利用者の特性に応じた避難誘導



※火災・地震発生時の「やさしい日本語」9の基本フレーズ

- ①「〇〇で火事です。」(危険情報)
- ②「〇〇は危険(あぶない)です。」(危険情報)
- ③「今の場所にごとください。」(禁止表現)
- ④「エレベーターは使うことができません。」(禁止表現)
- ⑤「逃げるときは、お知らせします。」(誘導表現)
- ⑥「今すぐ逃げてください。」(誘導表現)
- ⑦「私の後について来てください。」(誘導表現)
- ⑧「この建物は安全です。」(安心情報)
- ⑨「すぐに係の人が来ます。」(安心情報)

「やさしい日本語」は、日本語学習者が初期の段階で学ぶ約2000の語彙と、単文を主とした単純な構造からできており、日本語を学習しはじめた外国人でも、災害時に適切な行動が取れる表現になっている(日本語能力検定試験の3、4級の日本語に相当)。